

CSV 通信

令和 8年 3月 16日発行
東京都立中野特別支援学校+
しいの木分教室
校長 和田 慎也
文責:今本 和宏 堀切 美和

令和7年度 都立学校における発達障害教育推進に関わる研修会

令和8年1月20日(火) 東京都教職員研修センター
「思春期の精神疾患に対する理解と対応(アドバンス)」
駒木野病院副院長 笠原麻里 先生



今年度も、都立版エリアネットワークに関係される、高校や地区拠点校の先生方の教育実践力向上をめざし、都立学校教育部特別支援教育課と CSV 共催による研修会を上記のように開催いたしました。島しょ地区の先生へのオンライン配信も定着し、予定定員の100名を超える参加者がありました。

講師の笠原先生には、昨年度「精神発達と子どもにみられる精神疾患」というテーマでお話をいただきましたが、参加された先生方からの「もっと詳しくお話を聞きたい」「今回のその先のお話も聞いてみたい」というお声を受けて、2年続けての講師を快諾していただき、「アドバンス編」として開催することができました。初めて参加される先生もいらっしゃいましたので、導入は「思春期・青年期のこころの発達課題」のお話をしていただき、その後「思春期・青年期のストレスサイン」「深刻な SOS や症状」「ストレスサインに対峙する」など、具体的な対応の方法などを教えていただきました。最後の「トラウマ インフォームド ケア」のお話は、事後アンケートでは、「もっと時間をかけて詳しく知りたい」というお声をいただいています。高校や特別支援学校での生徒指導に、すぐにも生かせるお話をお聞きできたこと、そして機会がありましたら、またお話を聞かせていただきたいという思いをいただいています。

4年間でふりかえって

令和4年度に都立学校発達障害教育推進エリアネットワークが始まって4年を終えようとしています。それまで高校に特別支援学校のセンター的機能がうまく発揮できなかったことを解消するため、すべての高校が特別支援学校(知的障害教育部門高等部)とグループを形成し、日常的な連携が図られてきました。

CSV(センター的機能スーパーバイザー)はこの都立版エリアネットワーク発足の1年前から中野特別支援学校に配置され、中高一貫教育校(前期課程・中学)・附属小学校の特別支援教室の巡回指導を行ってきました。都立版エリアネットワークにおいては地区拠点校と高校との連携をサポートする役割を担ってきました。

4年前に都立版エリアネットワークが始まったころ、高校と特別支援学校は完全なる「異文化」だったと思います。「何ができるのだろうか?」「何をしてくれるのだろうか?」「また仕事が増える・・・」といった戸惑いも多く聞かれたようです。しかし、高校にも発達障害などさまざまな困りを抱える生徒がいるという現状を特別支援学校の教員が知ることができ、何よりこのつながりを通して高校の先生自身も改めて生徒の現状に気付くことができたと思います。高校における通級による指導も、最近では進学校と言われる高校にも続々広がってきました。

このつながりをより強固なものにし、より多くの生徒に還元できるよう、来年度から新たな制度がスタートします。

来年度について

令和8年度より、発達障害に加え、知的障害等その他の障害も対象として支援を実施することとなりました。

ネットワークの名称は、「都立学校発達障害教育等推進ネットワーク」(通称名は、従前どおりの「都立版エリアネットワーク」)です。

また、都立版エリアネットワークの全体の拠点校となる特別支援学校は、「インクルーシブ教育推進拠点校(通称 エリアネットワーク拠点校)とし、南大沢学園(西部地区)、中野特別支援学校(中部地区)、墨田特別支援学校(東部地区)が指定されています。

エリアネットワーク拠点校には、「インクルーシブ教育推進教員(以下ISV)」として2名ずつ配置し、地区拠点校による都立高等学校等への支援などを総合的にサポートします。

また、中野特別支援学校は引き続き、中高一貫教育校(前期課程・中学)・附属小学校の特別支援教室の巡回指導教員が4名配置されます。都立中高一貫教育校と附属小学校は、巡回指導教員が地区拠点校として支援を行います。

4月から新しい事業が始まります。これまで通り、地区拠点校、エリアネットワーク拠点校、そして、高等学校とで連携し、支援の充実に向けて進んでいきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

